星取り 五番勝負

本日のシェフ

唐沢　俊一

トンデモ本

「シンメトリーな男」 竹内久美子	新潮社 1400円	☆☆☆☆☆
「ゲーム機器があなたを殺す日がくる！」　鬼塚五十一	さくら出版 1429円	☆☆☆☆
「神々の声」 ロバート・M・ショック、ロバート・A・マクナリー、大地舜訳	飛鳥新社 1700円	☆☆☆
「なぜ自殺してはいけないか？」 瀬川雅生	コスモヒルズ 1800円	☆☆
「江戸幻想批判」 小谷野　敦	新曜社 1800円	☆☆☆

二〇〇〇年代を迎えてもトンデモ本は次々と出版され続け、われわれ研究者にはうれしいことなのだが、一般の人にとっては、そういうヘンな本というのは、なかなか見つけられるものではない。

そういう方のために、見つけやすいトンデモ本を今日はご紹介しよう。竹内久美子先生のお書きになった本のほとんどがそれだ。

竹内先生の本の書き方はだいたい、パターンが決まっている。生物学や動物行動学の最新の成果を海外の文献から探してきて、それを紹介する。その段階での先生の筆力はとてもすばらしいもので、難解な遺伝子工学や分子生物学などの解説が、一般人の理解に届く範囲でまことに明快に説明される。だが、次の段階で先生は、それを男女の浮気や恋愛、そしてセックスの強さなどといった、極めて卑俗なレベルでの話に直結させてしまうのだ。

これが文学的な比喩（ひゆ）としてなされるのならそれは面白い着眼点と言えるだろう。だが、生物学の話と男女関係の話はそもそも土俵が違うのであり、それを一緒にするのは、野球のルールで相撲を解説するようなもので、ナンセンスに過ぎない。今回の本「シンメトリーな男」でも動物の体型についての理論であるシンメトリー論を、人間の人生にまであてはめて、不良はシンメトリー型、優等生は非シンメトリーなどと話をどんどん広げていく。ダーウィンの進化論を曲解した果てにヒトラーの優性民族論が出てきたのだ、ということをもう少し真剣に考えてほしいなあ、この先生には。

鬼塚氏の「**ゲーム機器があなたを殺す日がくる！**」、ショック氏らの「**神々の声**」はもう少しトンデモに慣れた人なら充分に楽しめるだろう。鬼塚氏の本のオビの、悪魔の子（反キリスト）が一九九九年七月に生まれていたのだ、というのは、ハズレ予言の言い訳としてなかなかいい味である。

一方、瀬川雅生氏の「**なぜ自殺してはいけないか？**」は困った本だ。著者が若者世代に蔓延（まんえん）する、命の軽視に対し、真摯（しんし）に考えていることはよくわかる。しかし、その論理の中に精神宇宙論、物質否定論などという不確かなものが入り込んできているのでは、どっちもどっち、という気がしてしまう。まして、人類は輪廻（りんね）によって高度な存在になるのだから、臓器移植などをすればその臓器の持ち主が高度な存在に進化するチャンスを失わせることになる、などと反対するに至っては。

最後の小谷野氏の「**江戸幻想批判**」は、昨今ブームの江戸ユートピア論をトンデモ、と切って捨てる痛快さが眼目。一読、拍手を送りたくなった。

（評論家）

動物の体型と人生!?

土俵違いの話が直結

今週の五ツ星

☆☆☆☆☆